

日税メールステーション 特別号

海外基本情報 第1回

第1回 はじめに

昨年まで連載していた「あるビジネスマンのアジア出張記。」をお読みになっていた皆様大変お久しぶりです、そうでない方ははじめまして、株式会社コアブリッジの柳と申します。前回連載時に思いのほかご好評をいただいたこと（本当にありがとうございます）、同様の趣旨で気楽に読める海外情報をお届けしたいこと、ただ単に私が書きたいため(!)、などいくつかの動機から、装い新たに再度コラムを設けていただきました。他の先生方のものに比べるとだいぶ柔らかい内容になりますが、肩肘張らずにお読みいただければ幸いです。

本コラムでは、ASEAN 諸国を中心に、各国の基本情報に触れてまいります。その際には、各種情報等の提示に加え、実際に私がその国を訪問した際に見聞きし感じたことをお伝えしていきます。

ASEAN(東南アジア諸国連合)は、タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナム、ラオス、ミャンマー、ブルネイ、カンボジアの10カ国で構成されます。ちなみに『東アジア』というと、五十音順で並べると、韓国、北朝鮮、台湾、中国、日本、香港、マカオ、モンゴルの国々が含まれます。

前回の連載では、これの国のうち、シンガポール、マレーシア、カンボジア、中国、インド（ASEANには含まれませんが）について取り上げました。

今回のコラムでは、今後以下の予定で、その他の国の情報についてお伝えしてまいります。なお、各国編はそれぞれ2回に分けてお伝えする予定です。

(1) はじめに ← 今回

(2) ベトナム編

(3) インドネシア編

(4) フィリピン編

(5) タイ編

※各回の順番の変更や対象国の追加をすることがあります

さて、このコラムの内容検討時に、「何について触れるか」についてあれこれ考えま

した。訪問時のエピソードはさておき、各国の基本情報についてとなると、首都、面積、人口、言語、宗教、産業、経済指標、などなどを列挙してえらそーに講釈をたれる、なんていうことが頭に浮かびましたが、とてもそのようなガラではございません... また、基本的な数字ならば探せばすぐに見つかるので、あらためて並べられても面白味がありませんね。もちろん、必要なデータとして言及すべきものはありますし、いざ調べるのも面倒なのでどこかにまとまっていると楽、ということはありません。が、今回の趣旨として、それらの情報を基にしつつなるべく現地の状況をお伝えしたい、具体的には、日本と比較すると具体的にどうで、これから現地に行く時あるいは実際に現地に行った時にどのようなことに留意するか、をお伝えすることとしました。

例えば、

- ・言語：現地語以外の言語（英語、日本語）がどのくらい通じるか
- ・金銭：通貨、物価、税制
- ・交通：交通網の整備状況、渋滞、電車/バス/タクシーの普及度や料金
- ・通信：有線/無線 LAN や携帯電話の普及と実用度、SNS の利用状況
- ・安全：治安、親日度
- ・生活：気候、食事

といったことです。

これらに加えて、おおまかな歴史についても触れる予定です。

以前、1～2ヶ月間の海外インターンに出る大学生/大学院生向けの事前研修の仕事をしたことがあります。該当国初入国あるいは初の海外ということで、皆不安が一杯です。矢継ぎ早に色々な質問が出ました。少しでも不安を取り除こう、この機会には是非こんなことを体感してきて欲しい、ということをお話しました。それに近い事がこの場でできればと思います。

ASEAN 諸国を取り上げると申しましたが、あわせて忘れてならないのが、『日本はどうか』ということです。海外の人と話していると、「日本ではどうなの？」「なぜ日本ではそうなの？」という質問を非常に多く受けます。自国のことは意外と知らなかったりしますし、空気のように当たり前を感じている事をいきなり聞かれて説明するのは難しいです。詳しくはなくても、その場でまがりなりにも語れるようにはなっておきたいものです。まあ、知ってはいても外国語で伝えるのが難しいというのもあるんですけどね。「日本と比較して」と先述しましたが、各国と対比する事により、日本についてあらためて知る機会になる、ということ事も狙っています。

完全な余談ですが、先日イタリア人の友人と飯を食っている時に「Ken(※私のことです)、教えてくれ。どうして日本の女性のお笑い芸人はブサイクな人ばかりなんだ？見栄えがいいほうがいいじゃないか！」と言われました(※該当芸人の名誉のために抽象的かつかなり控えめに和訳しています...)。う～ん、さすがイタリー男！「美形は飽きられやすくてブサイクが残ってるんだよ」とか「ボケとツッコミという役割分担があっただねえ...」とか思いつくままに答えましたが「いや、それは分かってるんだよ」と言われ結局消化不良の問答になってしまいました。お笑い業界のこと、よく知らんしな... あれやこれやで最後は「日本のお笑いは非常に面白い！」という同意に至りその場は収まり、日伊の友好関係は無事保たれました。同席していた彼のガールフレンド(※日本語堪能で、彼にお笑いの内容を要約して伝えるそうです。すごい!)は、「日本のお笑いはストーリー性があってよく考えられている」とか「下ネタや悪口以外のネタが多いのが良い」と言っていました。目から鱗です。お笑いも、漫画やアニメーションに並ぶ特徴的文化になるのかもしれないね。「それならば落語はどう？」とも言いかけましたが、江戸時代のことを知らないと分かりにくいですからね。う～ん、やっぱり歴史の知識って大事だ！なお、「ツッコミ役がボケ役に突っ込む際に頭を殴るのは良くない！よく我慢しているな」とも。この辺も国際間差異も面白いですね。

少々脱線しましたが、初回は本コラムの趣旨と今後の予定という内容でお届けしました。次回からいよいよ各国の情報をお伝えしてまいります。是非ともお付き合いのほどよろしく願いいたします。

執筆者

柳 恵太 (やなぎ けいた)

株式会社コアブリッジ代表取締役。

ソフトウェア開発会社、メーカー、教育ベンダーを経て 2014 年初頭に株式会社コアブリッジを設立。これまでの、システム開発の上流から下流、受託側から発注側、エンジニアからプロジェクトマネージャー、ユーザーと開発者、企画・営業・開発・提供、社員から経営者といった、組織における幅広い役割を活かし、主に IT 企業向けの人材育成やコンサルティング等のサービスを提供している。